

## 第46回バイオマスタウンの公表

### 【新規公表：15構想の概要】

#### ・北海道興部町（おこっぺちょう）

興部町は、家畜排せつ物バイオガスプラントにおけるメタン発酵から、消化液の活用とバイオガスの直接利用に取り組み、地域産業の発展、地域環境の保全及び改善、循環型社会の形成を目指す。

#### ・宮城県大衡村（おおひらむら）

大衡村は、「みんなが主役だっちゃ 万葉の里 おおひら」をキャッチフレーズに第5次大衡村総合計画の基本理念である「共に育み 共に創り 共に生きる 愛と活力にあふれたまちづくり」の実現のため、住民や村内企業を含め、全員参加のバイオマス利活用を推進する。

#### ・秋田県由利本荘市（ゆりほんじょうし）

由利本荘市は、市内に賦存する豊富なバイオマス資源を貴重な財産と捉え現状の把握や利活用方法の検討をすることで、持続して発展可能な社会を目指す。

#### ・茨城県ひたちなか市（ひたちなかし）

ひたちなか市は、稲作、かんしょ栽培、干しいも加工を中心とした農業や水産業が活発であり、そこで発生する稲わら、もみ殻、干しいも加工残さ、水産加工残さや家庭等から排出される生ごみ、廃食用油、剪定枝・刈草などのバイオマス資源を堆肥、飼料、燃料として利活用を図り、地球温暖化の防止や資源循環型の地域社会をつくるとともに、新たな産業や雇用の創出、農水産業の振興を図る。

#### ・石川県輪島市（わじまし）

輪島市は、森林資源を活用し、森林の公益的機能等を維持するため、間伐材、林地残材等を木質燃料化し、ボイラー、ストーブ等の燃料として利用していく。また、海資源等の有効利用に向け、魚類の加工残さ等による飼料、医薬部外品などへの活用を検討していくと共に、食品残さや家畜排せつ物等の堆肥利用、高度化利用等を重点的に取り組み、安心・安全な農産物の地産地消を進める。

- ・長野県筑北村（ちくほくむら）

筑北村は、地域内に存在するバイオマスを燃料化や堆肥化して活用することにより、化石燃料の使用抑制、温室効果ガスの排出削減、地域資源の有効利用による循環型地域の形成、バイオマスの活用による地域の活性化を目指す。

- ・岐阜県関市（せきし）

関市は、農村部において林地残材、刈り草等を利用した発電所と発電に伴う廃熱を生かした野菜工場、ペレット製造設備の整備により地域振興を図り、都市部において家畜排せつ物、下水道汚泥、食品廃棄物を利用したメタン発酵により資源の有効利用を図る。

- ・岐阜県七宗町（ひちそうちょう）

七宗町は、「東濃ひのき」の主産地であり、林地残材などの木質バイオマスが豊富に存在するが、現状では利用率が低いため、まずは小規模ながらも、できるだけ低コストで林地残材を集材・出材するしくみをつくり、将来的には、燃料製造および地域内熱供給といったエネルギーの地産地消を図る。このことにより、山林等の環境の保全、農林業の振興、地域経済の活性化、交流人口の拡大をめざす。

- ・滋賀県東近江市（ひがしおうみし）

東近江市は、近畿有数の田園地帯と山林から生み出されるバイオマス資源を有効に活用するため、未利用となっている稲わらや間伐材等の堆肥化や燃料利用等を進める。また、これまで取り組んできた菜の花エコプロジェクトやもみ殻の炭化利用、自治会や家庭を主体に置いた生ごみの堆肥化、木質ボイラー利用などをさらに発展させ、市民の参加と協働を基軸に、地域自立につながる循環型社会の構築を目指す。

- ・京都府京都市（きょうとし）

京都市は、豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、バイオマスの活用を積極的に推し進め、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指す。

バイオマスの活用に当たっては、「木」、「紙ごみ」、「食品廃棄物」及び「廃食用油」を重点バイオマスと位置付け、中でも、間伐材、剪定枝、落ち葉、家具などの「木」については、「木の文化」を大切にすまち・京都として、徹底的に活用する。

- ・奈良県生駒市（いこまし）

生駒市は、地域の良好な環境を保全し持続可能な社会をつくるため、廃棄物の減量に取り組むと共に、良好な住宅都市の特性を活かし、家庭系食品廃棄物の利活用、し尿・浄化槽汚泥、下水汚泥の利活用、事業所から排出される生ごみ、廃食用油の回収・利活用の推進、剪定枝・刈草の堆肥化等により循環型社会の構築と地球温暖化防止への貢献を目指す。

- ・岡山県和気町（わけちょう）

和気町は、総面積の75%を森林が占めるなど木質バイオマス資源が豊富に存在しており、特に林地残材や廃材などの木質バイオマスの利活用に重点的に取り組むとともに、生ごみ・稲わらの堆肥化や廃食油のBDF化等を推進し、持続可能な資源循環型システムを構築し、地域の活性化を目指す。

- ・長崎県五島市（ごとうし）

五島市は、「五島らしさ、現実可能な計画性」を重視したバイオマス利活用を推進する。取組方針として、まず着実に廃棄物系バイオマスの利用量向上を目指して、実現の可能性が高い事項から順に取り組み、次に未利用バイオマスの利用に向けた取組を実施し、枯渇する化石資源への依存の低減と、二酸化炭素の排出削減を目指す。

- ・宮崎県高原町（たかはるちょう）

高原町は、バイオマス資源の自給率を高めながら、地域循環型社会の形成を目指す。従来型変換システムとして家畜排せつ物等のバイオマス資源を利用した堆肥化や炭化を進め、新たなシステムとしてエネルギーとマテリアルの同時並行生産を可能にし、かつ、処理に必要なエネルギーをできるだけ自給できる「エネルギー自立型」、処理残さも利用し尽くす「ゼロエミッション型」の変換システムを取り入れた『バイオマスコンビナート型複合変換施設』の整備を図る。

- ・沖縄県宜野座村（ぎのぞそん）

宜野座村は、地域のバイオマス資源を複合変換システム（バイオマスリファイナー機能）により、エネルギーとマテリアルの同時並行生産を図る「バイオマス利活用センター」の整備を目指す。

## 【改訂：2 構想の概要】

### ・北海道鹿追町（しかおいちょう）

鹿追町は、基幹産業である農業から排出される家畜排せつ物等をメタン発酵によりバイオガス及び消化液の有効活用を推進し、農業生産の向上はもとより地域循環型社会の形成を推進する。

### ・滋賀県長浜市（ながはまし）

長浜市は、豊富に存在するバイオマスの有効な活用を推進し、原料供給から変換・流通・利用に至るシステムを確立し、市民・民間事業者・行政機関が協働し、循環型社会を形成するとともに、温室効果ガスの排出量の少ない低炭素社会の実現を目指す。